

トマト黄化葉巻病耐病性有望品種

近年、県下ではトマト黄化葉巻病（タバココナジラミが媒介する病原ウイルスTYLCVにより、上位葉の黄化・葉巻・縮葉や株全体の萎縮等の症状がでる重要病害）の被害が増えている。そこで、黄化葉巻病の耐病性品種について、抑制作型及び半促成作型における有望品種を明らかにした。

内 容

栽培方法は養液土耕栽培（灌水同時施肥栽培）、栽植密度は2,469株 / 10a（条間1.35m×株間0.3m）とした。6月上旬播種の抑制作型では、「アニモTY-12」（写真1）が裂果が少なく正常果収量及び糖度が高かった。「TY桃太郎アーク」、「TY桃太郎さくら」も正常果収量が高く有望であった（表1）。草姿は「TY桃太郎さくら」がやや旺盛であった（データ略）。

表1 黄化葉巻病耐病性品種の収量・品質（抑制）

品種名	全収量 (kg/株)	正常果 収量 (kg/株)	正常果 率 (%)	裂果 率 (%)	糖度 (Brix%)
アニモTY-12	1,485	1,030	66	18	5.7
TY桃太郎アーク	2,055	963	49	30	4.9
TY桃太郎さくら	1,973	917	48	31	4.9
SYTMO04	1,795	678	41	50	5.4
TTM-061	1,517	620	42	43	5.0
アニモTY-10	1,550	614	40	44	5.5
秀麗	1,675	448	24	49	5.7
大安吉日	1,694	300	20	72	5.4

注1) 接木栽培、播種:2011.6.1 定植:7.8 収穫:8.19~11.24
注2) 正常果率、裂果率は個数割合



写真1 「アニモTY-12」

11月上旬播種の加温半促成作型では、「大安吉日」（写真2）、「TY桃太郎アーク」、「アニモTY-12」及び「アニモTY-10」が正常果収量が高

かった。糖度は「TY桃太郎アーク」、「アニモTY-10」が高く、有望であった（表2）。草姿は「大安吉日」がやや旺盛で、「アニモTY-12」がコンパクトであった（データ略）。

表2 黄化葉巻病耐病性品種の収量・品質（加温半促成）

品種名	全収量 (kg/株)	正常果 収量 (kg/株)	正常果 率 (%)	糖度 (Brix%)
大安吉日	3,457	2,608	80	6.1
TY桃太郎アーク	3,082	2,289	82	6.4
アニモTY-12	2,847	2,268	82	6.2
アニモTY-10	2,525	2,265	91	6.5
TY桃太郎さくら	3,253	2,144	72	5.8
秀麗	3,128	1,763	61	6.3
TYまもる	2,977	1,339	52	6.3

注1) 接木栽培、播種:2009.11.9 定植:12.14 収穫:3.29~6.21
注2) 正常果率は個数割合



写真2 「大安吉日」

普及上の注意事項

黄化葉巻病耐病性品種は病徴は抑えられるが感染・保毒はするので、感染源とならないようタバココナジラミ侵入防止のための防虫ネット展張などの耕種的防除や薬剤防除等も併せて行う必要がある。

中西 幸太郎（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2423）